

秋甘泉の着果基準

1 情報・成果の概要

(1) 背景・目的

‘秋甘泉’は‘新甘泉’に準じた着果管理が行われているが、品種の特性に応じた着果基準が作られていない。そこで、‘秋甘泉’の着果基準について検討した。

(2) 情報・成果の要約

‘秋甘泉’の着果基準は8果/mが適当である。長果枝（えき花芽）の果実は短果枝の果実より低糖度になりやすいので、極力利用しない方が良い。

2 試験成果の概要

(1) 処理方法

‘秋甘泉’9樹を供試し、2014、2015年の仕上げ摘果時に、側枝1m当たり6果、8果、10果の3処理区を設定した。果実品質を2014年9月18日、2015年9月16日に調査した。落葉後に新梢長、花芽数調査を行った。

(2) 調査結果

- 1) 果重は着果密度が高くなるにつれて、小さくなる傾向を示し、6果/m区で550g程度、8果/m区で500g程度、10果/m区で400g程度となった（図1）。
- 2) 糖度は、短果枝部位、長果枝部位ともに6果/m区、8果/m区で高い傾向を示した（図2）。しかし、長果枝部位の糖度は、どの処理区においても短果枝部位と比較し0.5度程度低くなる傾向を示した（図2）。
- 3) 果色については、10果/m区の進みが最も早く、次いで8果/m区、6果/m区の順となった（図3）。
- 4) 花芽数は、8果/m区で多く、6果/m区、10果/m区はやや少ない傾向となった。

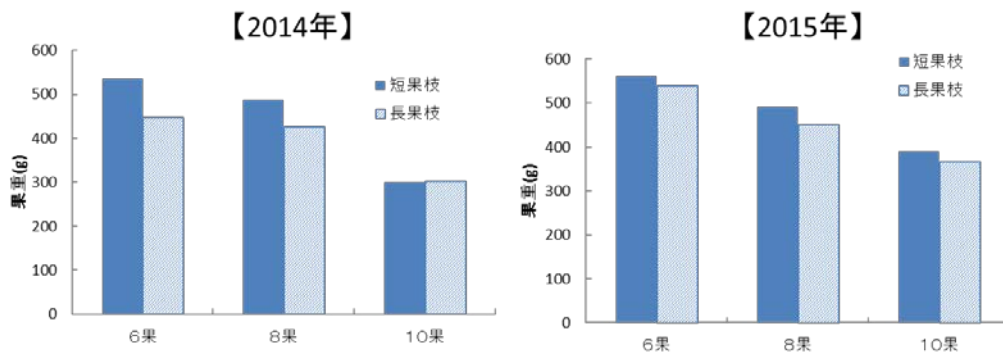


図1 ‘秋甘泉’の着果密度と果重の関係

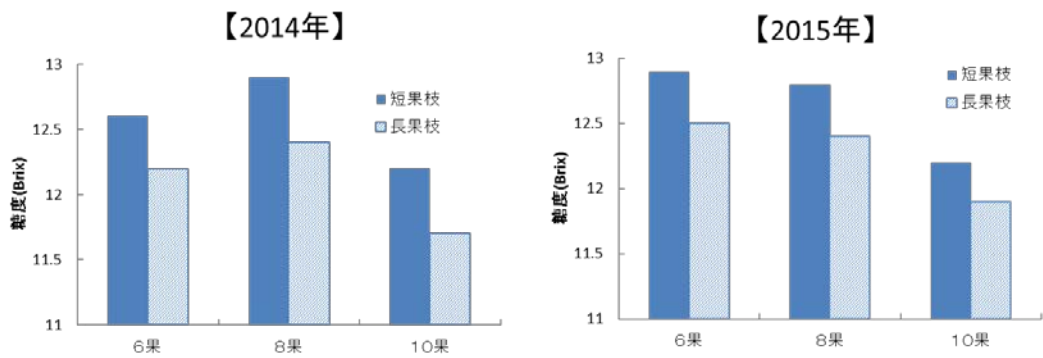


図2 ‘秋甘泉’の着果密度と糖度の関係

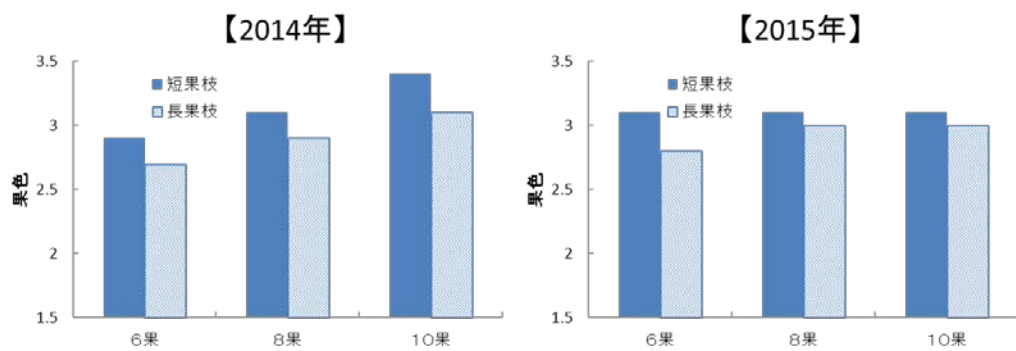


図3 ‘秋甘泉’の着果密度と果色の関係

3 利用上の留意点

(1) 本試験結果は、樹勢中庸な木に対する着果基準であり、樹勢の弱い樹、植え付け後数年の若木等は該当しない。

4 試験担当者

〔 果樹研究室 主任研究員 杉嶋 至*
室 長 池田 隆政
*現 西部農業改良普及所 〕